

推進工事に使用する立坑を
計画する場所がない？



拡幅ライナー立坑なら計画の
幅が広がります。

地下埋設物が支障になり
立坑の計画ができない？



車道工事規制なしで
立坑の施工が可能です。

◆現状技術との相違点◆

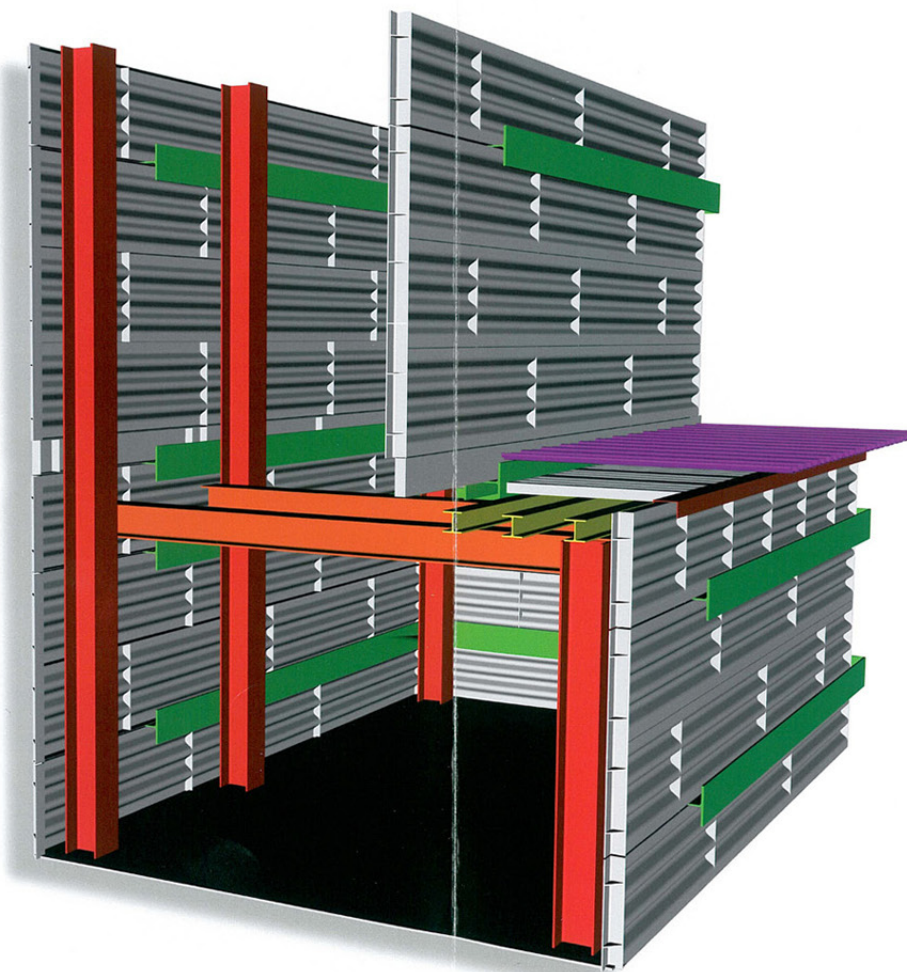
従来の対策

- ◆埋設管の吊り・受け防護を行う。
- ◆埋設管の切り廻しを行う。
- ◆土留め欠損部の防護を行う。
- ◆通行止めや夜間工事で立坑を築造する。
- ◆小型立坑で発進到達が可能な推進工法を採用する。
- ◆施工可能な路線へ迂回する。



拡幅ライナー立坑を使用した場合

- ◆埋設管の移設が不要となり工期短縮となる。
- ◆埋設管の移設費用が不要になる。
- ◆埋設管の移設協議が不要となる。
- ◆立坑の寸法が確保されることから幅広い工法選定が可能である。
- ◆標準推進管による施工が可能であり工費縮減及び工期短縮を図ることができる。
- ◆土留め欠損部からの災害を未然に防ぐことができる。
- ◆地域住民の苦情を少なくできる。
- ◆車線規制を軽減でき、工事に伴う交通渋滞を緩和できる。



◆工法概要◆

拡幅ライナー立坑は、既設埋設管を避けた掘削や、歩道・路側帯のみの開口で車道下に新たな管路を構築することを可能とする目的で開発した工法です。
ライナープレート立坑の上部を省スペースの開口部で築造し、支障物がなくなった時点で拡幅ライナーを使用することにより、推進施工に必要な作業空間を立坑下部に確保できます。

◆特長◆

車道の占有なしに立坑の築造が可能

- ◆幅員の狭い路上作業では、車線規制を軽減できるので工事による交通渋滞を緩和することが可能です。
- ◆歩道上から車道側に拡幅させることによって、歩道上のみを省スペース開口部とする立坑を築造することが可能です。

地下埋設物を回避し立坑の築造が可能

- ◆立坑構築費は部材数の増加と効率低下で若干上昇しますが、埋設管の切り廻し費用が省け、場所や条件によってはトータル的に工費縮減が可能です。
- ◆立坑構築工期は天井ライナー部の掘削設置や拡幅後の掘削効率低下から若干増加しますが、埋設管の切り廻しが省け大幅な工期短縮が可能です。

省スペースの立坑で標準管の推進が可能

- ◆立坑構築位置の条件により、推進工法の工法（施工方法、機種）が制約されることがありましたが、立坑下部を拡幅することにより制約が解消され幅広く工法選定が可能です。
- ◆推進工事も標準タイプの掘進機や推進管で施工が可能です。（作業効率がアップ）